

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## つながる税

福島市立岳陽中学校 3年 梅津 優那

「税金」私はこの作文を書くまで、税というものに関心がなく、よく分からなかった。十月から消費税が十パーセントに上がると聞いてもピンと来なかったし、自分には関係のない話だと思っていた。でも、ふと身近な所で考えてみたとき、百元ショップで買い物をした場合、今まで百八円だったのが百十円に。少しのように見えるが、高価なものを買ったときの二パーセント増は大きな負担になるだろう。私の税に対するイメージはあまり良いものではなかった。

そんなある日、私と弟と母の三人で病院を受診したとき、いつもは支払せずに薬をもらって帰るだけなのに、母がお金を払っている姿を見た。普段、そういう場面を見ないので驚いたのと同時にどうして私たち姉弟はお金がかからないのか母にたずねた。それは「子ども医療費助成制度」というもので、福島市では十八才になるまで医療費がタダになるそうだ。こんなところにも、国民が納めている税金が使われ、私たち子供は安心して医療機関を受診できているのだと分かった。

また、福祉にも役立てられていることが分かった。それは、実際に私の祖父母から介護保険に助けられたという話を聞いたからだ。一昨年五月に亡くなった曾祖父は、脳梗塞を発症し、介護が必要になった。そんな時に介護保険を利用することで、介護用ベッドのレンタル代やオムツ代、また、ホームヘルパー派遣代に充てることができたそうだ。だから、そのおかげで、最期まで老人ホームではなく、自宅で介護を続けることができたと言っていた。

また、教科書の裏には、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と明記されていた。これを読み、私たちが当たり前に使っている教科書も税金のおかげだと分かった。さらに詳しく調べると、明治時代に差別や貧困に苦しむ人のために無償化された

のが始まりだそうだ。全ての人が平等に学べるようにという思いがこめられていると知った今、感謝して使わなくてはいけないと思った。また、教科書の裏の一文が、一生懸命働いて納税した人たちからのメッセージだと思えば、なお一層大切に思えた。

こう考えると、負担に思える税も、私たちが豊かに安心して暮らせる世の中になるための必要不可欠なものだと思った。また、少子高齢化が進んでいる現在では、社会保障費にかかるお金が増え、一人当たりの負担が大きくなっているのも事実である。しかし、このような中でも私たち子供やお年寄りが今、幸せに何不自由なく生活できているのだから、心から感謝したいと思った。そして、私も、この幸せな暮らしが続くように、誰かの役に立てるように、ちゃんと納税できる大人になりたいと思った。